

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年4月30日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
宮下 美砂子	みやした みさこ	保育学科 通信教育課程	講師	女

## 担当科目名

言葉指導法

## 学歴

和暦(西暦)年月	事項	学位
平成7(1995)年4月	女子美術大学芸術学部デザイン学科 入学	
平成9(1997)年3月	女子美術大学芸術学部デザイン学科 中退	
平成9(1997)年4月	日本デザイナー学院グラフィックデザイン科 入学	
平成11(1999)年3月	日本デザイナー学院グラフィックデザイン科 卒業	
平成19(2007)年4月	千葉大学 文学部 史学科 入学(3年次編入)	
平成21(2009)年3月	千葉大学 文学部 史学科 卒業	学士
平成21(2009)年4月	千葉大学大学院 人文社会科学研究所 博士前期課程 入学	
平成24(2012)年3月	千葉大学大学院 人文社会科学研究所 博士前期課程 修了	修士(文学)
平成24(2012)年4月	千葉大学大学院 人文社会科学研究所 博士後期課程 入学	
平成29(2017)年9月	千葉大学大学院 人文社会科学研究所 博士後期課程 修了	博士(文学)
平成29(2017)年10月	千葉大学大学院 人文公共学府 特別研究員	

## 教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
株式会社キール・キュービック	平成11年4月～ 平成13年3月	グラフィック・デザイナーとして勤務
トーヨー加工株式会社入社	平成14年3月～ 平成16年11月	パッケージ・デザインのオペレーション業務
有限会社クラフトワーク	平成17年5月～ 平成19年3月	店舗、美術館等の壁面サイン、大型掲示物の作成業務
千葉商科大学サービス創造学部	平成29年4月～ 平成29年9月	非常勤講師
小田原短期大学	平成30年4月～	保育学科通信教育課程 講師

## 所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
総合女性史学会	平成26年6月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>例会、大会への出席(26年、27年、28年、29年)</li> <li>論文掲載(平成27年3月)論文題目:「いわさきちひろの画業の変遷を考える—同時代の「主婦・母親観」との関わりにおいて—」『総合女性史研究 第32号』総合女性史学会、pp.25-45</li> </ul>
ジェンダー史学会	平成26年6月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会への出席(26年、27年、28年)</li> </ul>
絵本学会	平成27年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会発表、大会への参加(27年、28年、29年)</li> <li>論文掲載(平成28年3月)論文題目:「いわさきちひろ『となりにきたこ』を考える—ジェンダーの視点からの新たな可能性—」『絵本学 第18号』絵本学会、pp.23-35</li> <li>学会発表(第20回大会、平成29年5月)発表題目:「いわさきちひろの描いた高度成長の夢と現実—「月刊保育絵本」の作品にみる—」</li> </ul>
美学会	平成27年6月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>例会、大会への参加(27、28、29年)</li> <li>学会発表(第3回東部例会、平成26年9月)発表題目:「童画」とプロレタリア美術運動における女性画家—いわさきちひろの画業を再検討する視点から—」</li> </ul>

社会活動等				
名称	活動期間	活動内容		
イメージ&ジェンダー研究会	平成24年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例会への参加 (24、25、26、27、28、29年)</li> <li>・研究発表 (平成26年9月) 発表題目: 「「主婦論争」から再考するいわさきちひろの画業」</li> </ul>		
担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
色彩士検定 3級	平成10 (1998) 年1月	色彩士検定委員会		
博物館学芸員資格	平成21 (2009) 年3月	千葉大学		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特になし				
(学術論文) 1. 「言説空間における「いわさきちひろイメージ」の形成過程をめぐって—作品と作品を語る「ことば」の選択、固定化に着目して—」	単著	平成25年3月	上村清雄編『空間と表象 人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第259集』千葉大学大学院人文社会科学研、pp. 155-172	「母性」や「平和」の画家として知られる絵本画家・いわさきちひろのイメージと、メディアや展覧会などで繰り返し使用される「言説」との関係性について考察した。絵本の受容者の中心である母子の期待や社会のニーズに応じるように、いわさきちひろのイメージが形成され、固定化していった側面があったことを明らかにした。
2. 「いわさきちひろのメディア進出と支持層の開拓—初期活動内容にみる—」	単著	平成26年3月	上村清雄編『歴史＝表象の現在 人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 第279集』千葉大学大学院人文社会科学 科学研究科、pp. 156- 168	いわさきちひろが1950年代～60年代に共産党メディアから一般の主婦・母親向けのメディアに活躍の場を拡大させ、絵本画家としての地位を築いた過程を考察した。子どもに絵本を買い与える存在である母親からの支持を獲得することが、児童書や教育系の書籍、幼児向けの絵本などといった媒体で活躍するために必要な条件であることを明らかにした。
3. 「石井桃子と女性画家の協働関係—終戦から1960年代前半の活動を中心に—」	単著	平成26年3月	三宅晶子編『文化における想起・忘却・記憶 人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 第268集』千葉大学大学院人文社会科学研究所、pp. 13-28	絵本作家であり児童文学者でもある石井桃子の戦後間もない時期から1960年代前半の活動について、主に女性画家たちと協働した仕事に着目して考察した。石井は、戦前から欧米の児童文学と子どもたちへの文学作品の普及活動における女性同士の相互扶助的な取り組みに関心を持っていた。その理想像が、戦後における石井を中心とする児童文学の普及活動のあり方に大きな影響を与えたことを明らかにした。
4. 「月刊保育絵本」にみるいわさきちひろの母子像の変遷—一九五〇年代末から一九七〇年代前半における—」	単著	平成27年3月	上村清雄編『歴史＝表象の現在Ⅱ 人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第294集』千葉大学大学院人文社会科学研究所 pp. 164- 176	幼稚園や保育園を通して園児のいる各家庭に購買される「月刊保育絵本」という媒体に着目し、いわさきちひろの描く母子像を当時の社会背景から分析した。いわさきが「月刊保育絵本」に描いた母子像は、当時の理想的な母子の姿を体現したものとなっており、社会全体が共有していた家族観、家庭教育のあるべき姿、ライフスタイルが凝縮された図像であった。憧れの対象となる絵本には、理想を現実にしようとする行為を喚起する機能があることを示した。

<p>5. 「いわさきちひろの画業の変遷を考える—同時代の「主婦・母親観」との関わりにおいて—」 (※査読有り)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 27 年 3 月</p>	<p>『総合女性史研究 第 32 号』総合女性史学会、pp. 25-45</p>	<p>戦後日本のジェンダー編成及び主婦・母親のあり方の変容と、いわさきちひろの画業の変遷との相関関係を考察し、いわさきちひろの絵本作品が母親からの支持を集める理由を究明した。いわさきは、専業主婦を中心に多様な立場の主婦、母親を包摂する図像によって、その人気を確立した。そして、母から子に継承される文化財である絵本という特徴を通し、世代を超えて読み継がれていることが人気の高さに貢献していることを指摘した。</p>
<p>6. 「国内絵本の欧米進出といわさきちひろの画風の確立—一九六〇年代から一九七〇年代前半の「至光社」にみる—」</p>	<p>単著</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>上村清雄編『歴史＝表象の現在Ⅲ 人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 第 305 集』千葉大学大学院人文社会科学研究科、pp. 132- 143</p>	<p>戦後の日本の絵本が、欧米の絵本から多大な影響を受け、次第に国際的な出版活動へと発展し、国外からの高い評価を獲得するようになった歴史的経緯を考察した。特にいわさきちひろの絵本制作に深く関与し、「月刊保育絵本」を通して「文化財としての絵本」を作ることを目指した至光社の取り組みに着目し、同社の欧米進出といわさきちひろの画風の変化、国際的評価の高まりとの関係を分析した。</p>
<p>7. 「いわさきちひろ『となりにきたこ』を考える—ジェンダーの視点からの新たな可能性—」 (※査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>『絵本学 第 18 号』絵本学会、pp. 23-35</p>	<p>いわさきの絵本作品『となりにきたこ』をジェンダーの視点から分析することで、現代における新たな読み方の可能性を探った。いわさき作品において特異な点が複数みられる本作には、それらの特徴を通して、「男女共働」のあり方や、「男の子らしさ・女の子らしさ」にとらわれず、子どもの個性を尊重することの重要性を訴えかけるという今日的な課題にも通じる新たな解釈が可能であることを呈示した。</p>
<p>8. 「いわさきちひろ作品における「父親の不在」—絵本批評と受容者との関係から考える—」</p>	<p>単著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>池田忍編『未完成—企図／作品／芸術家— 人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 第 333 集』千葉大学大学院人文社会科学研究科、pp. 103-115</p>	<p>母親像で人気を博すいわさきちひろは、自身の絵本作品のなかに父親像を描くことを意図的に避けていることを新たに問題提起した。その理由について、同時代の絵本批評における父親に対する言説と、いわさきも深く関与した「月刊保育絵本」に表象された父親像を照らし合わせて分析を行った。以上の分析から、いわさきは、当時の理想とされた虚構の父親像よりも、高度成長期における家庭内の父親のあり方を、より現実的に描き出したという結論に達した。</p>
<p>(その他) 「『あかちゃんのくるひ』—親子の「危機」に寄り添う絵本—」 (※依頼原稿・書評)</p> <p>「いわさきちひろ作品における「父親の不在」—同時代の絵本批評との関わりから—」 (※依頼・学会発表)</p>	<p>単著  単独発表</p>	<p>平成 28 年 6 月  平成 29 年 12 月</p>	<p>『幼児の教育 第 115 巻』日本幼稚園協会、pp. 34-39</p> <p>日本児童文学学会</p>	<p>いわさきちひろの代表作の一つである『あかちゃんのくるひ』について取り上げ、筆者独自の観点からの読み方を紹介した。制作当時の家庭のあり方から物語を分析すると同時に、本作が有する現代にも通じる普遍的な意義について再考した。この絵本は、「二人目」の子どもが生まれる際に生じる母子の間の葛藤や困難について問題提起をしつつも、当事者である母と幼児に寄り添うような働きを持っていることを指摘した。</p> <p>1950 年代後半から 70 年代初頭までのいわさきちひろの絵本作品を中心に、父親像の不在が特徴的にみられることを考察した。その理由を探るため、当時の絵本づくりをリードした編集者たちの絵本批評にみられる家庭と絵本のあり方を精査した。絵本批評のなかでは、家庭内での父親の存在感が希薄になっていくことへの危機感から、性別役割分業を前提とした「あるべき父親像」が強調されていたことを確認し、当時の月</p>

				刊保育絵本にも同様の父親像が描かれていることを指摘した。そこから、いわさき作品にみられる父親像が当時としては特異なものであり、高度成長期の家庭のあり方をよりリアルに表現したものであると結論づけた。
その他（表彰等）		特になし		